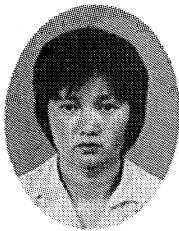


すいそうすいそうすいそう

## けんかをしよう



小泉明子

すいそうすいそうすいそうすいそう

朝のS・H・Rの時間。前日の清掃の反省が述べられる。「だいたい良くできました」の意見が多い。清掃の内容も問題だが、当番のくせに、全然やらない者がいること、そしてそれ以上にそのようにサボっている者に対して、何を言うでもない姿勢に腹が立つ。「サボる者がいれば、そのサボる者の分だけ仕事の量は多くなる。自分に不利益なことに対する、なぜ、腹を立てないのか。サボるなど注意し、それでもサボるようなら、けんかしない。サボる者を見過すことが友情ではない。ごまかしだ。けんかしないのが仲良しではない、やつぱりごまかしだ」私は決して暴力肯定論者ではないけれど、人と人との真剣な気持ちでぶつ



キミ、前をむきなさい

かり合えば、衝突があるのは当然だと思う。初めから衝突を恐れていれば、新しい人間関係は生まれないだろう。

Aは新学期早々、二週間近く、欠席、遅刻、早退をくり返している。顔色はさえない。「ずいぶん休みが多いな。サボってんじやないの。」「……」「サボつてんじやないか」と疑われているんだから、理由があれば説明しなさい」「かぜをこじらせて身体の調子が悪いんです。だいぶ良くなつたから、これからは休みません。」

これまでの、のらりくらりとした態度のAに対し、これは一筋縄ではいかないぞと、腕まくりをして彼と相対すれば、前述のことく、あっさりと一応

かいたかったのに、意外に優等生的な反応を見せられ、割り切れない気持ちでいっぱいになる。

彼らの引き起こす大なり、小なりのけんかは、自分の力を誇示するための手段だけのようみえる。自分の内種々の欲求不満のはけ口として、うつぶん晴らしをしているようにさえ見える。当然、自分より弱いとする級友をいじめるのもいとわない。自主的神経をもつ人間にとつて、あるいは、もつつある人間にとつて、けんか、衝突はひとつつの正当な自己表現であろうに。彼らには、自主的精神の発達が停滞しているということか。

だいたいにして、彼らの内に、若者らしい潔癖さ、正義感をみつけることが少なくなつたようだ。迫力がなく、は気がなく、自己中心的な小優等生が増えたようだ。心細くなる。そして、人間発達の上で若者らしさの欠如は、不健康で病的でさえあるのではないかという不安をはらうことができずそら恐しくなる。

「けんかをしてはいけません、仲良くしない」的な教育に、幼いときから慣れ従つてきた彼らの素直な姿なのだろうか。